

# 合併の経営を不安視

## クリスタルバレイ 県議会 質問続出

6月定例県議会で27日、算執行を予定している。

県議の質問に一問一答方式で県側が答える質疑があり、県議からは県の外郭団体の貸し工場に入る予定の合併企業の経営に、不安の訴えが続出した。破綻したクリスタルバレイ構想に基づいて整備された貸し工場の支援に、県は29億円の予

算執行を予定している。

構想では六ヶ所村に液晶企業を集める計画だったが、貸し工場に入ったエイエスが昨年破綻。県議会は3月、貸し工場支援の予算案を、エイエイエスから事業譲渡された六ヶ所村の産廃業者、相和物産の経営基盤を安定させることを

条件に可決した。相和物産は7月、米国の液晶メーカー日本法人(神戸市)と合併する予定で、県は予算執行を議会に説明していた。

27日の質疑では、伊吹信一県議(公明)が「液晶業界は業界再編が進むなど厳しい事業環境。合併企業の経営状況をチェックし続ける必要がある」と述べた。相馬鋁一県議(無所属)は「大手も苦戦する業界で、資本金2億円の合併会社の見通しは暗い」と訴えた。